

① 本学の重点領域である「デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク(DBLR)」の推進による革新的研究基盤の強化【多様性、卓越性】

- 医工学研究拠点 → 医療創成工学専攻を設置、さらに医療創成工学科（仮）を設置予定。医療機器開発を中心に、神戸未来医療構想の推進
- 健康長寿研究拠点 → 本部、各種センターを設置、ウェルビーイングに関する研究体制の整備
- 先端膜工学研究拠点 → 革新膜の社会実装を推進、地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備事業に採択
- バイオものづくり共創研究拠点 → 世界をリードするバイオものづくり拠点、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に採択
- 社会システムイノベーション研究拠点 → 社会科学系の参画、総合知の創出と社会実装の促進

● DBLR推進機構の体制整備

グローバル・イノベーション・カタパルト設置による知財管理体制・スタートアップ強化、3つのインキュベーション施設整備による研究環境の充実

↑↓【相乗効果】

【バイオものづくり共創研究拠点】

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業で取り組む、グローバル・イノベーション創出機能と本学のGAPファンドによる支援の相乗効果により、スタートアップ創出を加速。

② 事業化までの切れ目のないベンチャー、スタートアップの育成支援、研究成果の社会実装の推進【社会実装、イノベーション】

- ベンチャー、スタートアップ支援 → 学内の優れた技術シーズを事業化するため早期の実証支援（GAPファンド 2020年から4年で86件）の展開と国立大学初となる民間資本によるベンチャーファンドによる投資（22億円、12件）
- 産官学連携の推進 → (株)神戸大学イノベーション(KUI)による積極的な産官学連携を展開、共同・受託研究等資金の獲得、知財収入の獲得、包括連携を推進

● 学内GAPファンドによる支援を拡充、第2号ベンチャーファンド（60億円規模）組成に向けた検討

● アントレプレナーシップ教育を共通科目として全学展開、地域に資する起業家精神を有する人材を育成

● KUIの機能強化による共同研究・スタートアップ育成の強化

③ 地域連携プラットフォーム等を活用した自治体・企業と一体となった地域連携活動の推進【地域貢献】

- 地域連携プラットフォーム → 本学が発起機関となり「大学都市神戸 産官学プラットフォーム」（神戸市、市内11大学、企業20社）が発足
- 自治体事業の活用 → 「大学発アーバンイノベーション神戸（2020年から35件1.4億円）」等、神戸市をはじめ、自治体の自主財源による事業を活用

● 大学都市神戸 産官学プラットフォームの拡充、産官学が連携したプロジェクトの強化

● 自治体事業の積極的な活用により、地域の課題解決の強化と資金の獲得を推進

研究環境の整備・充実と経営力強化のためのマネジメントの強化【研究環境、マネジメント（経営力）】

- 研究支援体制の充実 → URAやIR人材等をはじめ、高度専門職(政策研究職員)の充実、女性研究者支援により多様性のある研究環境の構築
- 博士課程進学者支援奨学金 → 博士課程に進学して卓越研究者を目指す修士学生を支援、自己資金による優秀な若手研究者の育成
- 学内資源の有効活用 → 資産運用型基金の創設と資金運用による資産拡大、土地・建物の有効活用による自己収入の獲得促進、財源多様化への取組

【アウトカム】

	● Web Of Science 論文数	● 国際共著 論文数	● TOP10% 論文数	● 外部資金 獲得額	● 外部資金 獲得額 (自治体)	● 共同・受託研究 件数、獲得額	● 大学発ベンチャー 設立数	● SDGsを中心とした社会連携 プロジェクト	
2016 - 2020	9,860報	3,206報	1,049報	2020	135億円	11.7億円	1,270件、52億円	35社	4件
2019 - 2023	10,697報	3,582報	962報	2023	181億円	11.8億円	1,489件、74億円	60社	17件
2024 - 2028	12,100報	4,400報	1,100報	2024	190億円	14.6億円	1,635件、80億円	68社	20件

DBLRを中心とした革新的研究の推進と傑出した知の創出

社会的・経済的に価値のある研究成果の社会実装の実現

知・人材・財の循環、イノベーション、エコシステムの確立

雇用の創出等、地方経済へのインパクト

地域の中核研究大学として、地方創生を牽引

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和 4 年度採択校フォローアップ調書

法人名：国立大学法人神戸大学 大学名：神戸大学

(1) 地域中核大学としての取り組みと効果

地域の中核大学として、自身の強みや特色が、本事業によりどのように進展したと自己分析しているか。

【羅針盤① 多様性と卓越性】

本学は、未来社会に向けた新たな課題の解決に資する経済的・社会的価値を創造する「異分野共創研究教育グローバル拠点」として発展し、「傑出した知」「卓越人材」「革新的イノベーション」を創出することを目指している。本ビジョン実現のため、バイオものづくり、医工学、健康長寿、先端膜工学、社会システムイノベーションの 5 拠点を中心とし、革新的研究基盤「デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク(DBLR)」を形成してきた。本事業費や学内外の資源を重点投資することにより、拠点の研究活動を後押しし、異分野間の連携・相乗効果により、卓越した成果を多数創出している。

医工学研究拠点では、神戸医療産業都市において神戸市、産業界とともに医療機器開発を主眼とした内閣府・神戸未来医療構想に取り組み、2023 年度に医学研究科に医療創成工学専攻を設置して、海外との連携により先端医療機器を開発するグローバルイノベーション人材の育成を強化するとともに、産学共創研究を促進するために新たにメドテックイノベーションセンターを建設中である。健康長寿研究拠点では、予防医学やレジリエンスの向上等の研究を行っており、2022 年度に全学組織「ウェルビーイング推進本部」と「ウェルビーイング先端研究センター」を、2023 年度に医学研究科に「疾病健康管理・疫学研究センター」を設置した。さらに、産学共同で健康長寿研究を推進する Continuing Care Retirement Community 構想を進めており、自治体・企業と連携した教育研究活動を行う体制を整備している。バイオものづくり共創研究拠点は、バイオエコノミーの構築を目指し、世界をリードするバイオものづくり拠点に成長しており、2023 年度に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択されている。先端膜工学研究拠点では、革新膜の社会実装によるカーボンニュートラルと SDGs の実現に向けた研究を推進し、2023 年度に「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」事業に採択され、「バイオメディカルメンブレン研究・オープンイノベーション拠点」を建設し、兵庫・神戸地域を代表する産学融合中核拠点の拡充を進めている。

また、2023 年度に各拠点を統括し、研究環境基盤を整備するために DBLR 推進機構を設置し（学長直下）、社会システムイノベーション研究拠点との連携を強化し、知財戦略体制の整備、スタートアップ育成を促進して、大学の成長エンジンとしての DBLR の推進体制を強化した。

これらの取組の着実な進展により、本学の革新的研究基盤は確実に強化されており、外部資金獲得額の増加や各種論文数等の研究実績において着実な成果を上げている。TOP10%論文は、コロナ禍の影響等により、DBLR 以外の特定の分野で低迷したが、DBLR の若手教員においては、TOP10%の論文割合が倍増し、質の高い論文を輩出している。評価指標は以下のものとする。

○アウトカム、評価指標：外部資金獲得額（2020 年度 135 億円 2023 年度 181 億円）、
Web of Science 論文数（2016-2020 年 9,860 報、2019-2023 年 10,697 報）、
国際共著論文数（2016-2020 年 3,206 報、2019-2023 年 3,582 報）、
TOP10%論文数（2016-2020 年 1,049 報、2019-2023 年 962 報）〔いずれも提出時点〕

【羅針盤② 社会実装・イノベーション】

2020 年 3 月に産学連携機能を外部化した承認 TLO である（株）神戸大学イノベーション(KUI)を設立し、柔軟な人事によりプロフェッショナル人材を揃え、機動的な交渉力をもって積極的な産学連携活動を展開している。知財ライセンス活動（2020 年度 0.9 億円、2023 年度 3.3 億円）に加え、成長ポテンシャルの高いスタートアップの創出に繋がる技術を実証する本学独自の GAP フェアンドを継続的に展開し、本事業費と本学自己資金により、2020 年度から 4 年間で 86 件の支援を行い、事業化までの切れ目のない支援を展開している。さらに、KUI の子会社である（株）神戸大学キャピタル(KUC)において、地域の金融機関やベンチャーキャピタルと連携し、2023 年 1 月に国

【様式1】令和4年度採択校フォローアップ調書

立大学では初となる民間資本によるベンチャーファンド「神戸大学ファンド」(22億円)を組成し、本学のみならず神戸地域を活性化するスタートアップ12社(本学発スタートアップ10社)に対して出資を進めている。加えて、スタートアップによる社会実装とイノベーションの創出に向け、関西圏の大学とも連携(START事業等)しながら、強力に進めている。

これらの取組の成果として、共同・受託研究の獲得や大学発ベンチャーの設立が大きく進む等、研究成果の社会実装が大きく進展している。評価指標は以下のものとする。

○アウトカム、評価指標：共同・受託研究件数、獲得額(2020年度：1,270件 52億円、2023年度：1,489件 74億円)、大学発ベンチャー数累計(2020年度：35社、2023年度：60社)

【羅針盤③ 地域貢献】

本学が発起機関となり、産官学が結集して「大学都市神戸」の未来像を検討するとともに、大学と地域社会がともに地域の発展に資することを目的として、「大学都市神戸 産官学プラットフォーム(PF)」が2023年11月に発足した(神戸市や市内11大学と企業20社が参画)。このPFの活動の場としてイノベーションスペース(KOBE Co CREATION CENTER)が整備され、本事業費で雇用した本学のコーディネーターが他機関の職員とともにプロジェクトを推進している。各大学の強みを活かした人材育成プロジェクト、SDGsの達成に向けて社会課題を解決するプロジェクト等8件が開始され、さらに30件以上のプロジェクトの検討が進んでいる。また、コーディネーターにより、組織対組織による地域連携を強固にし、本学の研究者・学生の共同研究やスタートアップ育成を支援し、地域活性化を加速してサステナブルなアカデミックグローバルシティの形成を進めている。こうした大学をハブとして自治体や産業界のネットワークが構築され、相互に強みを発揮するという枠組は地域創生におけるモデルケースとなる。評価指標は以下のものとする。

○アウトカム、評価指標：自治体からの外部資金獲得額(2020年度11.7億円、2023年度11.8億円)、SDGsを中心とした社会連携プロジェクト数(2020年度4件、2023年度17件)

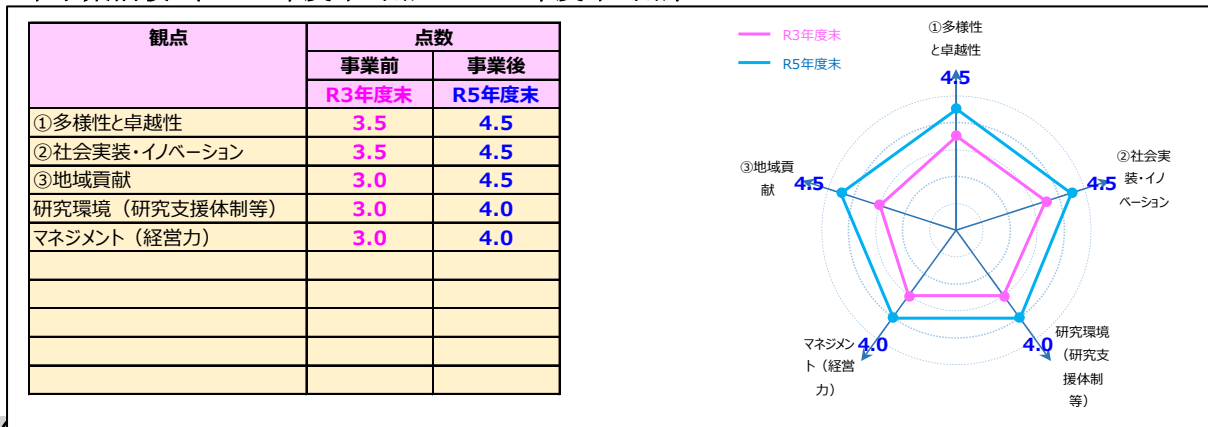
【羅針盤 研究環境(研究支援体制等)】

研究時間の確保等、研究環境を整備・充実するため、研究支援人材の充実と博士課程進学支援を実施してきた。URAやIR人材等政策的・専門的業務に従事する高度専門職を育成するために、本学独自の「政策研究職員」制度を設けるとともに、本事業費等によりプロフェッショナル人材の雇用を進める等、優秀な研究支援人材の質及び量の充実を図ってきた(URA及び政策研究職員:19名、うち2023年度に1名増)。また、本事業費により、「博士課程進学者支援奨学金制度」を創設し、修士課程から博士課程のシームレスな教育支援体制を充実させ、地域社会に貢献できる次世代博士研究者を育成している。本制度により、これまで延べ60名の学生に対して支援を行って博士課程への進学を促し、博士課程の入学者が2020年度343人から2023年度357人に増加した。

【羅針盤 マネジメント(経営力)】

戦略企画室に助成金獲得企画推進部門を設置し、競争的資金の獲得に向けた情報を一元化するとともに、IR機能を整備し経営基盤の強化に向け財源多様化と獲得額増加を戦略的に進めている。また、事業費・研究費の効果的な配分を行うため、戦略的事業評価専門委員会を設置し、評価結果(費用対効果や目標の達成状況)に基づき、支出が成果に繋がる事業に重点的配分を行ってきた。

・本事業前後(2021年度末時点・2023年度末時点)



(2) 地域連携した社会貢献の取組を通して得る外部資金獲得額増加に係る実績

【様式1】令和4年度採択校フォローアップ調書

①地域と連携し社会貢献の取組を通じて得る外部資金獲得額の増加に係る実績等と目標

【外部資金の獲得額】

(単位：千円)

年度	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標
外部資金獲得総額	323,204	407,852	2,364,270	513,130
案件数	31	42	53	56

※令和5年度はインキュベーション拠点整備に係る補助金、計20億円(経産省、神戸市)を含む。

○特筆すべき取組

・事業名：神戸未来医療構想(参画期間：2019年度～)

2023年度から臨床現場と一体化した医療機器開発と実践的教育を行うため、新たに医療創成工学専攻を設置し(2023年度:修士課程15名、博士課程12名在籍)、2025年度には医学部医療創成工学科(仮称)を設置予定であり、海外との連携を強化し、我が国の医療機器開発を牽引するグローバルイノベーション人材の育成をより一層強化していく。また、産官学連携拠点の拡充のため、国際がん医療・研究センター隣接地に先端医療機器開発拠点として「医工融合型産業創出集合知(地)」メドテックイノベーションセンターの増築を進めており、地域の産官学ネットワークのプラットフォームとして持続的に実践的創造人材を輩出し、医療機器開発をベースとした地域産業の活性化に貢献していく。さらに、2024年度から展開枠に採択され、神戸未来医療構想を拡充・推進していくことに加え、2023年9月には事業推進に関わっている未来医工学研究開発センターが経済産業省地域オープンイノベーション拠点「J-Innovation HUB」地域貢献型に採択された。加えて、2023年度に産官学連携を推進し、国産医療機器やヘルスケア機器の実用化と普及を図る(一社)医療創成工学研究開発機構を設立した。

・事業名：地域オープンイノベーション拠点選抜制度(Jイノベ)(参画期間：2020年度～)及び地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備(参画期間：2023年度～)

DBLRの研究拠点であり、世界有数の膜研究拠点である先端膜工学研究センターが我が国の膜工学研究を牽引し、革新膜創出に取り組んでいる。(一社)先端膜工学研究推進機構の会員企業約80社と緊密な産学連携体制を構築し、新規膜の社会実装を通じて外部資金獲得に繋げている。

2020年12月に「J-Innovation HUB」の採択を受け、海外・国内グローバル企業等との産学連携活動を積極的に行い海外展開に注力した結果、2022年12月には国際共同研究等の実績が評価され、3年間の延長が決定した。また、2023年度に「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」事業に採択され、兵庫・神戸地域の中核大学である本学の産官学連携本部隣接地にイノベーション拠点「バイオメディカルメンブレン研究・オープンイノベーション拠点」を整備している。先端膜工学研究センターを中心に未来医工学研究開発センター等と連携し、バイオプロダクト生産と医療材料に応用できる先端膜開発と社会実装・スタートアップ創出を加速する。

先端バイオ工学研究センターにおいては、バイオものづくり領域で世界をリードするバイオプロダクト生産技術により、イノベーションを創出し、大学発ベンチャー育成に繋がってきており、将来的には大学への還元を確保していく。神戸医療産業都市において産官学連携を強化し、企業誘致を進め外部資金を積極的に獲得しており、グリーンイノベーション基金事業(NEDO)に係る外部資金を獲得する等、大型の研究プロジェクトを推進している(センター実績 2022年度:3.9億円 2023年度:9.6億円)。また、2023年9月には、経済産業省地域オープンイノベーション拠点「J-Innovation HUB」国際展開型に採択され、外部資金獲得額においても国際連携を強化してきている。さらに、2023年度には、当センターを中心に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択され、大学としてグローバル・イノベーション・キャンパスを目指している。

②財源多様化による経営基盤の強化に向けた大学の取組

(a)外部資金獲得に向けた体制強化

学長を室長とする戦略企画室を設置し、同室のもとに研究や教育等の戦略企画部門を設置し、学長のリーダーシップのもと、より迅速に意思決定できる体制を強化している。各部門には、理事、副学長の他、教員、IR人材やURA等の高度専門職である「政策研究職員」や外部からのプロフェッショナル人材を適材適所に配置している。2022年度同室に助成金獲得企画推進部門を新設し、競争的資金の獲得に向けた情報を一元化し、経営基盤の強化に向けて財源の多様化と獲得額の増加を戦略的に進めるとともに、学内研究資源を有効に検索・活用できるよう研究内容を一覧できるリサーチハブシステムを整備・強化している。また、外部資金獲得額に応じ、研究者や部

【様式1】令和4年度採択校フォローアップ調書

局に対してインセンティブ予算の配分を2023年度に開始し、全学的に外部資金獲得を目指すマイノリティの醸成を図っている。さらに、知財収入の増加とスタートアップ育成を加速するため、DBLR推進機構にグローバル・イノベーション・カタパルトを設置し、URAや知財専門家を新たに雇用する等、体制強化を進めている（17名の組織とし、8名増員予定のうち、3名の雇用が決定）。

(b) 民間企業との共同・受託研究獲得

KUI と KUC は神戸市、三井住友銀行との包括連携協定に基づき、金融機関が有する地域の中小企業のネットワークを活用して共同研究・受託事業や包括連携を積極的に展開し、研究者と企業ニーズのマッチングに繋がっている。2023年度の地域を中心とした企業訪問件数は年間延べ600件に上る。また、産学連携の入口にあたる学術相談件数は48件（約2,100万円）、共同・受託研究成約数は97件、約4.5億円となる等、KUI設立前までは、定型的なサポートや特許出願業務が主であった産官学連携本部の飛躍的な機能強化が図られている。KUCにおいても、金融機関とのネットワークをフル活用して優秀なキャピタリストを招聘し、国立大学初となる民間資本だけで構成するファンドの組成を確立し、60億円規模を目標とする第2号ファンドを計画する等、大学を核とする地域連携エコシステムを形成している。

(c) 自治体との連携事業体制の強化

産官学連携本部を核として神戸市との連携を強化し、本学が発起機関である地域連携PFが発足した。今後、このPFを活用して自治体・企業との連携を一層強化し、自治体の自主財源による事業を提案し様々な活用を行っていく。既に、若手研究者が行政とともに地域課題解決を行う「大学発アーバンイノベーション神戸」を神戸市とともに2020年度から展開し、これまでに35件の補助金（約1.4億円）を受け入れ、卓越した研究事業を実施している。さらに、ふるさと納税を活用して学生のアントレプレナーシップ教育を行う「未来の神戸づくりプロジェクト」を神戸市と連携して実施し、2020年度からこれまで延べ約1,300万円の資金を受け入れた。

(d) 学内資源の有効活用

余裕金の運用により得た収益を原資として基金化し、資金運用を行うとともに、収益をさらに再運用することで複利効果を生み出し、将来に向けて加速度的に資産の拡大を図る「資産運用型基金」を創設した。また、国立大学で初となる「業務上の余裕金の運用に係る文部科学大臣の認定基準」第3及び第4の2の認定を取得し、40億円規模の金銭信託による委託運用を開始した。2023年度に学内の資金状況を勘案して3億円の追加投資を行うとともに、基本ポートフォリオを見直し、安全性を考慮しながら、よりリターンの高い運用を目指している。さらに、2024年度から本学が有する土地を貸出し、民間事業者が多目的スポーツ施設の整備と維持管理を負担させ、本学が利用できる取組を実施しており、今後も土地の賃借・売却等も含め、積極的に資産の有効活用を進め、自己収入の獲得増を図っている。

(3) 今後の取り組み計画とその効果

○DBLRでの研究推進、地域社会課題の解決

DBLR推進機構についてさらなる整備を行い、大学の先端教育研究の中核として関連組織を戦略的に活用するとともに、一元的に管理運用できる体制に移行する。また、DBLRのバイオものづくり、医工学、先端膜工学の各拠点に関連する新たなインキュベーション施設を整備することにより、研究環境をより一層充実させてDBLRを強化していくとともに、産学連携活動を推進する。さらに、社会システムイノベーション研究拠点を中心に社会科学系の参画により、総合知の創出と社会的課題の解決を図り社会実装を加速させる。

地域連携を加速する地域連携PFを本格稼働させ、あらゆる分野において地域の大学・自治体・産業界が連携して地域活性化に向けたプロジェクトを展開する。このようなPFの構築は、大学が核となった自治体や産業界とのネットワーク強化に繋がり、相互に強みを発揮し、地域おけるSDGs達成に向けた社会課題の解決と地域創生を牽引する大きな原動力となる。

【地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージにおける関連事業】

DBLRのバイオものづくり共創研究拠点を中心に、卓越した基礎研究と社会実装を両輪として世界的な共創研究拠点を形成し、次世代の人材育成や地域産業の発展にも寄与する取組として「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択された。当該事業を通じて強化されるグローバル・イノベーションを創出する革新的技術を生み出すシステムと、その研究成果を自己資金等によって実施するGAPファンドや神戸大学ファンドに結び付けることにより、さらなるスタートアップ創出を加速させる。

【様式1】令和4年度採択校フォローアップ調書

○地域を活性化するスタートアップ支援、ベンチャー育成支援の強化

学内シーズを支援する GAP ファンド をさらに拡充するとともに、KUC からのアーリー段階に必要な大型ファンドの支援を継続し、事業化までの切れ目ない育成体制を人材確保と資金の両面において強化していく。また、60 億円規模の第 2 号ファンド 組成に向け、地域の金融機関との連携をさらに強化し、大学を核とする地域連携エコシステムの中心的存在としての活動を推進する。

○地域を担う若手起業家、卓越若手研究者の育成、女性研究者雇用促進

アントレプレナーシップセンターでの アントレプレナーシップ教育プログラム について、全ての学生を対象とした共通科目として充実させ、地域中核大学として未来を担う起業家精神を有する人材育成を強力に押し進めていく。また、若手研究者の育成については、本学の自己資金を投入することで、「博士課程進学者支援奨学金制度」による修士課程から博士課程までの教育支援を実施するとともに、DBLR の取組に資するテニユアトラック期間の若手教員に対する 研究スタートアップ資金 の支援も充実させる。さらに、女性研究者の雇用に向けて、雇用経費を支援 するとともに、優秀な研究者を 早期昇進 させ、多様性のある研究環境を構築する。

【羅針盤① 多様性と卓越性】

バイオものづくり拠点をはじめ DBLR を拡充することにより、本学の 革新的研究基盤 を強化し、新たな研究成果を社会に還元し、外部資金をはじめとする 社会からの投資の獲得 を推進する。

○アウトカム、評価指標：外部資金獲得額（2024 年度 190 億円）、

Web of Science 論文数：12,100 報、TOP10%論文数：1,100 報、国際共著論文数：4,400 報

〔いずれも 2024-2028 年累計〕

【羅針盤② 社会実装・イノベーション】

DBLR の強化による新たな研究成果や学内シーズへの 産官学連携支援、神戸大学ファンド を活用した スタートアップ支援 を行うことで社会的・経済的に価値のある社会実装を加速させる。

○アウトカム、評価指標：共同・受託研究件数、獲得額（2024 年度 1,635 件、80 億円）、大学発ベンチャー設立数（2024 年度 68 社）

【羅針盤③ 地域貢献】

PF を活用し、市内の各大学、神戸市、産業界等の連携を強化し、SDGs の達成や地方創生に向けた産官学連携による共同事業・プロジェクトを推進することで、地域経済の活性化 を牽引する。

○アウトカム、評価指標：自治体からの外部資金獲得額（2024 年度 14.6 億円）、SDGs を中心とした社会連携プロジェクト数（2024 年度 20 件）

【羅針盤 研究環境（研究支援体制等）】

部局運営業務を免除し、研究・教育活動に専念させる 若手卓越研究員制度 や 女性研究者支援 を積極的に進める。また、研究 DX を推進し、研究の企画・実務の効率化を図り、研究時間の確保に資する取組を推進する。さらに、高度専門研究支援人材の充実 を行うとともに、研究設備の共用促進 等、研究環境について整備・充実を図る。

【羅針盤 マネジメント（経営力）】

戦略企画室に、新たに IR 機能に特化した「総合 IR 戦略部門（仮称）」を設置し、本学の戦略的な取組の立案に必要な 調査・分析機能 をより一層強化する。また、学内独自の評価制度を活用し、成果に繋がる取組への資源配分や各種インセンティブ配分を行う等、限りある学内資源の有効活用を促進するとともに、外部資金獲得増をはじめとする財源の多様化に取り組む。

・本事業終了以降（2024 年度末時点）

観点	点数		
	事業前	事業後	
	R3年度末	R5年度末	R6年度末
①多様性と卓越性	3.5	4.5	5.0
②社会実装・イノベーション	3.5	4.5	5.0
③地域貢献	3.0	4.5	5.0
研究環境（研究支援体制等）	3.0	4.0	4.5
マネジメント（経営力）	3.0	4.0	5.0

